

平成 30 年 6 月 7 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K00450

研究課題名(和文) 公立図書館という空間に関する歴史横断的研究

研究課題名(英文) New Perspective on the Historical Development of American Public Libraries

研究代表者

川崎 良孝 (KAWASAKI, Yoshitaka)

京都大学・教育学研究科・名誉教授

研究者番号：80149517

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は19世紀末から21世紀にいたる図書館の歴史的展開を通覧し、公立図書館思想と実践について3つの重要な変革期を1890年代、1960年代、そして21世紀と識別した。そして各々の時代の図書館の思想と実践を解明している。「1890年代」は図書館数の増加とサービスの拡大が生じる時代、「1960年代」は「社会的責任」や「アウトリーチ・サービス」という語で代表される時代、「21世紀」は図書館の揺らぎと展開の時代である。その成果は以下として刊行している。川崎良孝『アメリカ大都市公立図書館と「棄てられた」空間』(2016)；川崎良孝・吉田右子編著『現代の図書館・図書館思想の形成と展開』(2017)。

研究成果の概要(英文)：The present study has clarified the historical development of American public libraries from the 1890's to the 21st century from a new perspective. Ideas and practices of public libraries have been transformed in the three important eras, 1890's, 1960's and 2000's. In 1890's industrialization, urbanization, and flux of immigrants from eastern and southern Europe influenced the extension of library services and the increase of the number of public libraries. In 1960's social upheaval resulted in the increasing consciousness of social responsibilities and outreach services in libraries. In the first decade of the 21st century digital environments invite the discussion of the necessity of library as bricks and mortar and so on. This study empirically clarifies such historical development through an extensive use of primary materials and critical historical studies. And the results of this project were published in two monographs.

研究分野：図書館情報学

キーワード：アメリカ公立図書館 図書館空間 図書館サービス 社会的責任 知的自由 日刊新聞 マイノリティ階級

1. 研究開始当初の背景

(1) 21世紀になり、インターネットに代表される電子環境によって、知識や情報の配布や流通の仕方に劇的な変化が生じてきた。ここでは建物としての図書館を過去の産物とする論調がある。また国際テロリズムによって、社会のセキュリティを求める動きが高まり、それとともにプライバシーが軽視される状況が生じている。それは図書館利用者のプライバシーや図書館記録の秘密性の問題として、図書館でも大きな関心になっている。すなわち20世紀後半からの公立図書館の原則である知識や情報へのアクセス、および利用者のプライバシーの保護や図書館記録の秘密性について、大きな揺らぎが生じている。

(2) このような技術的、社会的変化を受けて、図書館はさまざまな工夫をしている。例えば、電子環境の整備、「場としての図書館」、ラーニング・commons、コーヒー・ショップを付設する図書館、住民自体が館内で企画を行う図書館など、多種多様な取り組みがなされている。すなわち21世紀の図書館に向けて、図書館は模索と展開をしている状況にある。

(3) 上記のような図書館状況を受けて、現実のサービスに関する事例研究や個別実証的研究は非常に多く存在する。そうした個別研究はともかく、21世紀の図書館が置かれている状況を、図書館の歴史的展開を視野に入れて、図書館史全体の中で、その意味を考えるという研究は皆無といってよい。

2. 研究の目的

(1) このような研究状況を踏まえて、本研究は歴史的視座を持ち込むことで、21世紀の図書館状況を全体的に明らかにすることを目的とした。すなわち現在試みられている個別的な多様なサービス全体を解釈する一般図式の提供を目的にしている。

(2) いっそう直接的な研究目的は以下である。特にアメリカ公立図書館の歴史を通覧した場合、大きな変革期が3つあった。まず1890年代から20世紀初頭で、この時代には図書館数の増大とサービスの拡大がもたらされた。前者はカーネギーによる図書館への寄付、後者は子どもへのサービスの開始が代表的な例となる。次に1960年代後半から1970年代で、ここでは公立図書館の社会的責任が問われ、アウトリーチ・サービスが実施された。現在の公立図書館の原則であるアクセスの保障とプライバシーや秘密性の保護が確立されたのもこの時代である。そして最後が21世紀で、電子環境や社会変化にともなう公立図書館の揺らぎと新たな模索、展開の時代である。本研究プロジェクトではこの3つの時代を取り上げ、公立図書館についての歴史横断的な研究を目指した。

3. 研究の方法

(1) 上記の「1890年代」「1960年代」「21世紀」という3つの転換期は、川崎のこれまでの研究から抽出したものである。この3つの時代の特徴となる動きを焦点を絞って考察することで、これらの転換期の図書館の活動と意味を浮かび上がらせることにした。

(2) そのために、マイノリティ、女性図書館員の役割、および北欧の図書館に造詣が深い吉田右子教授（筑波大学）、第三の場を中心に図書館空間のあり方に精力的な研究を続けている久野和子准教授（神戸女子大学）、それにアメリカ公立図書館の具体的なサービスを現地調査をもとに研究している中山愛理講師（大妻女子短期大学）を連携研究者とし、関連図書館学方法論研究会を設けて、本プロジェクトを進行させていった。

(3) 例えば1890年代の研究の部分は、既存の文献を批判的に検討するとともに、個別図書館については各館の年次理事会報告など基礎資料を渉猟して、厚い記述にするように心がけた。概して、構想、方法、解釈の点でオリジナル性が極めて高いプロジェクトにした。

4. 研究成果

本プロジェクトの研究成果を3つの時代に分けてまとめる。

(1) 「1890年代の図書館空間」の研究(担当：川崎)：1890年代から20世紀初頭の時期に、現在に至る公立図書館のすべてのサービスが出現し、また図書館数が飛躍的に増大した。すなわち現代の公立図書館の基本的性格を形成したのが、この時代である。そうした時代に、公立図書館という空間がどのように認識されていたかについて、特に定期刊行物などの扱いを取り上げて、資料、建物、図書館利用者の相互関係について実証的に明らかにした。ここでは特に階級を意識した批判的考察を行い、図書館の年報など第一次資料を駆使して、公立図書館の基本的性格を解明した。具体的には、(1-a)「定期刊行物と公立図書館」、(1-b)「大都市公立図書館と定期刊行物」、(1-c)「定期刊行物、大都市公立図書館システム、階級」に分けて分析し、定期刊行物として特に日刊新聞に注目した。(1-a)「定期刊行物と公立図書館」については、19世紀中葉に公立図書館が発足した時期、図書館はまさに「図書」館であり、雑誌や新聞を置いていない場合が多く、これは会員制図書館と大きな相違点であることを指摘した。会員制図書館は大量の雑誌や新聞を利用者に提供していたのである。そして公立図書館も次第に雑誌や新聞、特に日刊新聞を取り込んでいく。(1-b)「大都市公立図書館と定期刊行物」では、大都市公立図書館での定期刊行

物閲覧室 (periodical reading room) を取り上げ、雑誌や新聞を利用者に自由に手に取って読ませるといった措置が、図書館の読書環境や閲覧室の環境に大きな悪影響をもたらしたことを明らかにした。すなわち浮浪人の増加であり、大都市公立図書館はその対策に頭を悩ますことになる。対策は換気設備の増強、カウンターに雑誌や新聞を請求するという方式への変更、さらには警備員の常駐など、あらゆる考えられる方策が導入された。そして図書館は、こうした雑誌や新聞の閲覧室を利用する人びとを労働者階級と把握し、調べものや真面目な読書のために参考室を利用する中産階級と明確に区別して認識していた。そうした分析を受けて、(1-c)「定期刊行物、大都市公立図書館システム、階級」では、大都市公立図書館における日刊新聞、階級、図書館の空間配置は、中央館通俗部門 - 分館 - 労働者階級、中央館一般部門 - 中産階級という結びつきに加えて、閲覧室 - 新聞 (日刊新聞)・大衆雑誌 - 労働者階級、閲覧室 - 参考図書・専門雑誌 - 中産階級という図式を描くことができるとまとめた。そして新聞室はいわば「棄てられた」空間とされ、玄関の至近あるいは地下に置かれた。それは労働者が図書館の中核部分に入り込まないための措置である。こうした研究結果は単行書として刊行した。

(2) 「1960年代の図書館空間」「21世紀の図書館空間」: 1960年代は現代公立図書館の価値である「資料や情報へのアクセスの保障」と「利用者のプライバシーや図書館記録の秘密性の保護」が形成された時代で、図書館思想では社会的責任という語が、現実の図書館サービスではアウトリーチ・サービスという語が鍵になる。公民権運動を中心とする社会の影響を色濃く受けた時代である。一方、21世紀は電子環境が図書館に大きな影響を与えている時代である。本研究プロジェクトでは、単に1960年代や21世紀の図書館や図書館研究の状況を個別的に検討するのではなく、1960年代に新たに出現してきた図書館の思想や実践が、どのように進展し、21世紀に入ってどのように変化しているのかという点を重視した。

(3) 川崎は1970年代に形成されたアメリカ公立図書館史の包括的解釈 (社会統制論、女性化理論) が、21世紀に入って批判理論、場の理論、プリントカルチャー史、読書の理論を取り込むことで、新たな包括的解釈 (社会調整論など) が提出され、図書館史への視座および解釈が大きく変化してきたとした。連携研究者の吉田右子は、1960年代にアメリカでは先住民への図書館情報サービスが開始されたことを詳述し、それが21世紀に入ると国際的な広がりをもって展開していると論じ、21世紀の状況に重点を置いて記述した。吉田論文は多文化図書館サービスに関する

論文でもある。連携研究者の中山愛理は、すでに1960年代のアウトリーチ・サービスに関する業績があるが、1960年代のアウトリーチ・サービスの提供、モノの提供を押さえたのち、21世紀に入ってモノの提供に加えてコト (経験) の提供に拡大しているということ、ネットワーク時代を踏まえて考察した。連携研究者の久野和子は、日本を舞台に子どもへのサービスを取り上げ、特に読書空間に注目してこの時代の全体的動向を説明した。さらに川崎は福井佑介 (京都大学大学院教育学研究科講師) と共著で、アメリカ公立図書館の基準を歴史的に追い、1960年代から1970年代の基準論議を受けて全国一律の公立図書館基準がなくなり、各館の状況を踏まえて最適のサービスを構築していくとの方向が定まるとまとめ、さらに21世紀の電子環境下での基準の動向について説明した。三浦太郎 (明治大学文学部准教授) は上述のアメリカ図書館史研究に関する川崎の研究史を視野に入れつつ、日本の図書館史研究について1960年代からの主要業績をまとめ、さらに1990年代後半からの新たな動向 (読書論などの導入) について触れた。

(4) こうした研究成果は最終的に以下の2冊の図書として上梓した。まず「1890年代の図書館空間」の成果は以下である。川崎良孝『アメリカ大都市公立図書館と「棄てられた」空間: 日刊新聞・階級・1850-1930年』京都図書館情報学研究会発行、日本図書館協会発売、2016年11月、267p. 次に「1960年代の図書館空間」「21世紀の図書館空間」の成果は以下である。川崎良孝・吉田右子編著『現代の図書館・図書館思想の形成と展開』京都図書館情報学研究会発行、日本図書館協会発売、2017年8月、245p. なお『現代の図書館・図書館思想の形成と展開』には連携研究者の中山愛理、久野和子に加えて、福井佑介、三浦太郎が執筆に加わった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

川崎良孝「アメリカ大都市公立図書館での開架制の進展: バッファローとプロヴィデンスを中心として」『図書館界』(査読有) 69 (6), 2018年, p. 340-356.

川崎良孝・福井佑介「アメリカ図書館協会『戦後図書館基準』(1943年)の成立過程: 量的基準を中心に」『図書館界』(査読有) 69 (6), 2018年, p. 326-339.

川崎良孝「アメリカ大都市公立図書館での開架制の導入: クリーブランドとミネアポリスを中心として」『図書館界』(査読有) 69 (5), 2018年, p. 272-287.

DOI:10.20628/toshokankai.69.5_272

川崎良孝「アメリカ公立図書館と開架制論議(1890年代)」『同志社図書館情報学』(査読有)27号,2017年,p.1-25.
DOI:10.14988/pa.2017.0000016826

川崎良孝「アメリカ公立図書館と開架制:開架制導入前史」『図書館界』(査読有)69(3),2017年,p.170-185.
DOI:10.20628/toshokankai.69.3_170

川崎良孝「ウェイン・A.ウィーガンドと文化調整論:図書館史研究の第4世代」『図書館界』(査読有)68(3),2016年,p.200-214.
DOI:10.20628/toshokankai.68.3_200

川崎良孝・川崎智子「日刊新聞とアメリカの大規模公立図書館:19世紀末から20世紀初頭にかけて」『図書館界』(査読有)67(5),2016年,p.292-308.
DOI:10.20628/toshokankai.67.5_292

〔学会発表〕(計2件)

川崎良孝「図書館トリニティのその後:アクセス再考(アメリカを例に)」日本図書館研究会,2017年11月19日,同志社大学(招待発表)

川崎良孝「21世紀のアメリカ公立図書館の動向」上海市図書館学会,2016年5月13日,上海図書館(招待講演)

〔図書〕(計12件)

ポール・T.イェーガー、ナタリー・グリーン・テイラー、アースラ・ゴーム著,川崎良孝・高鍬裕樹訳『図書館・人権・社会的公正:アクセスを可能にし、包摂を促進する』京都図書館情報学研究会発行,日本図書館協会発売,2017年,207p.

川崎良孝・吉田右子編著『現代の図書館・図書館思想の形成と展開』京都図書館情報学研究会発行,日本図書館協会発売,2017年,245p.

川崎良孝「ウェイン・A.ウィーガンド『生活の中の図書館』(2015)と図書館史研究の第4世代」川崎良孝・吉田右子編著『現代の図書館・図書館思想の形成と展開』京都図書館情報学研究会発行,日本図書館協会発売,2017年,p.3-61.

川崎良孝・福井佑介「アメリカ公立図書館基準の歴史的変遷:概観」川崎良孝・吉田右子編著『現代の図書館・図書館思想の形成と展開』京都図書館情報学研究会発行,日本図書館協会発売,2017年,p.127-170.

ウェイン・A.ウィーガンド著,川崎良孝訳『生活の中の図書館:民衆のアメリカ公立図書館史』京都図書館情報学研究会発行,日本図書館協会発売,2017年,429p.

川崎良孝『アメリカ大都市公立図書館と「棄てられた」空間:日刊新聞・階級・1850-1930年』京都図書館情報学研究会発行,日本図書館協会発売,2016年,267p.

川崎良孝・吉田右子・山口源治郎・薬師院はるみ「総論 A. 図書館とは何か, B. 図書館と社会, C. 図書館情報学」日本図書館協会図書館ハンドブック編集委員会『図書館ハンドブック』(第6版補訂2版)日本図書館協会,2016年,p.2-42.

アメリカ図書館協会知的自由部編纂,川崎良孝訳『アメリカ図書館協会の知的自由に関する方針の歴史:『図書館における知的自由マニュアル』第9版への補遺』京都図書館情報学研究会発行,日本図書館協会発売,2016年,290p.

アメリカ図書館協会知的自由部編纂,川崎良孝・福井佑介・川崎佳代子訳『図書館の原則 改訂4版:図書館における知的自由マニュアル(第9版)』日本図書館協会,2016年,304p.

川崎良孝「図書館における社会的責任:ACONDA 報告をめぐるアメリカ図書館協会での議論と帰趨」『相関図書館学方法論研究会編『マイノリティ、知的自由、図書館:思想・実践・歴史』』京都図書館情報学研究会発行,日本図書館協会発売,2016年,p.113-148.

ポール・T.イェーガー、アースラ・ゴーム、ジョン・カーロ・バートット、リンジー・C.サリン著,川崎良孝訳『公立図書館・公共政策・政治プロセス経済的・政治的な制約の時代にコミュニティに奉仕し、コミュニティを変化させる』京都図書館情報学研究会発行,日本図書館協会発売,2016年,246p.

川崎良孝『アメリカ図書館協会『倫理綱領』の歴史的展開過程:無視、無関心、苦悩、妥協』京都図書館情報学研究会発行,日本図書館協会発売,2015年,247p.

〔その他〕

ホームページ等
京都大学大学院教育学研究科図書館情報学研究室ホームページ
<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/~lib-sci/kawasaki/k-index.htm>

6 . 研究組織

(1)研究代表者

川崎 良孝 (KAWASAKI, Yoshitaka)

京都大学名誉教授

研究者番号 : 8 0 1 4 9 5 1 7

(3)連携研究者

吉田 右子 (YOSHIDA, Yuko)

筑波大学・図書館情報メディア系・教授

研究者番号 : 3 0 2 9 2 5 6 9

久野 和子 (KUNO, Kazuko)

神戸女子大学・文学部・准教授

研究者番号 : 8 0 6 3 5 5 2 4

中山 愛理 (NAKAYAMA, Manari)

大妻女子大学短期大学部・国文科・講師

研究者番号 : 8 0 4 3 5 2 3 9